



あべ としあき  
**阿部 俊明 教授**

～ 細胞治療分野 ～

講義題目

**網膜疾患との闘い**

**【略 歴】**

1984年 3月 新潟大学医学部卒業	1993年 7月 東北大学医学部附属病院助手（復職）
1984年 6月 東北大学医学部附属病院研修医	1996年11月 東北大学医学部附属病院講師
1986年11月 東北大学医学部附属病院助手	1998年 4月 東北大学医学部助教授
1987年 4月 公立相馬病院	2002年10月 東北大学大学院医学系研究科教授
1988年 4月 東北大学医学部附属病院助手	2023年 3月 退職
1990年 9月 米国国立衛生研究所留学	

**【研究業績等の紹介】**

阿部俊明教授は1984年に新潟大学を卒業し、東北大学眼科助手を経てアメリカ国立衛生研究所で分子遺伝学を学び、復職後、1994年に医学博士を取得されました。その後、難治性網膜疾患の病態解析と治療法開発に従事し、2002年に創生応用センター細胞治療開発分野の教授に就任し、同センターの目的である動物実験や基礎的研究を臨床応用することを目指すトランスレーショナルリサーチに従事しました。臨床研究としては、加齢黄斑変性患者の手術標本や培養細胞を利用した解析を行うとともに、自己虹彩色素上皮細胞を採取・分離し、培養した後に患者本人の網膜下に移植するという世界で最初の試みの臨床研究の一端を担いました（指導、眼科玉井信教授）。これらは“2007年度日本眼科学会評議員会賞（JOS Council Award）”を受賞する主研究になりました。これらの仕事は長年の病態解析の成果によるものでしたが、阿部教授は加齢黄斑変性以外にも難治性網膜疾患の病態解析も継続し、数々の成果を報告しました。

代表的な成果として、工学研究者（東北大学大学院工学研究科・西沢松彦教授、梶弘和准教授（現東京医科歯科大教授））、臨床研究推進センター、眼科学教室（中澤徹教授）等とチームを作り、臨床研究の成果から医師主導治験を介する汎用性のある難治性網膜疾患治療法開発を行いました。この研究では、まず目的に合わせた薬剤を持続的に徐放することができる世界初の薬剤徐放デバイス

の開発を行い 2010 年に日本、中国、EU,米国で特許を取得しました。この治療法開発には厚生労働省や日本医療研究開発機構（AMED）から長期にわたり研究費の支援をいただき、研究チーム全体で体内埋植型薬剤徐放デバイスの開発、班会議の立ち上げ、治験届の提出を経て、2020 年 5 月に難治性網膜疾患の代表である網膜色素変性治療の第一症例目の医師主導治験を開始しました。本研究では網膜色素変性患者レジストリを同時に進行させており、日本における本症の原因遺伝子解析や疫学にも貢献しました。

難治性網膜疾患の解析だけでなく外来診療・手術にも従事し、企業治験も含めた最新治療を患者に届けることに尽力し、日本眼科学会評議委員なども務めて眼科学の発展に貢献しました。